

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	・学習規律を整えるとともに、問題解決型学習過程「戸山の学び」を全教科で適宜取り組み、主体的な問題解決力を養う。	中 間 評 価	・学習規律や主体的な問題解決力を養っていくことは概ねできている。今後も、継続して指導していく。	最 終 評 価	
環境づくり		・各教科で適宜 ICT 機器を活用するなど授業展開を工夫して、どの児童にも「分かる」「できる」学習環境を作る。		・ICT 機器を活用して授業の展開を工夫することはおおむねできている。引き続き指導し、児童の力を高めていく。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	学正しい書き順で、ひらがなやカタカナ、漢字を書くことができない児童が見られる。 学ひらがなの習得テストでは、ほとんどの児童が正しく書くことができた。しかし、ひらがなの習得をはじめ、学習が定着できていない児童も見られる。	・正しい書き順で文字を書くことに課題がある。 ・個別に支援が必要な児童に対して、より良い指導の実践をすることが課題である。	・定期的に復習プリントを行い、正しい書き順を定着させていく。 ・学習内容が定着できていない児童等への個別支援を強化し、基礎的な読み書きの定着を図る。		
	算数	学計算問題では、たし算とひき算の計算において、計算の仕方を正しく理解していない児童や、理解をしていても答えを求めるまでに時間がかかる児童が見られる。	・計算問題において、正しい計算方法を身に付けていない児童がいる。	・授業の中で、具体物を使って数の感覚を養うようにしていくとともに、家庭学習や計算プリントなどを繰り返し行い、早く正確に答えが求められるようにする。		
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組み（4 月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学文章を書くときに「は」「を」「へ」を正しく活用することが課題となる児童が見られる。 学漢字の書き順や読み方が、定着していない児童が見られる。 学大きな声で音読をすることが難しい児童が見られる。	・文章を書く際に「は」「を」「へ」を正しく活用することが課題である。 ・漢字の書き順や読み方、活用の仕方を定着させていくことが課題である。 ・はっきりと大きな声で音読をしていく態度を身に付けさせることが課題である。	・「は」「を」「へ」を正しく活用することを定着させていくために、見本となる文章を示し、繰り返し視写していく学習活動を取り入れていく。 ・新出漢字を指導していく際に、漢字の書き順を 10 回以上確認することを通して、正しい漢字の書き順や、読み方を定着させるための学習活動を取り入れていく。 ・音読を学級内で聞き合うことや、発表する機会を設定することによって、相手を意識して音読をしていく学習活動を取り入れていく。	・自分の気持ちを中心にして、文章を長く書くことができる児童が増えてきた。「はじめ」、「中」、「終わり」を考えて文章構成を意識した文を書く学習活動を取り入れていく。 ・家庭学習で音読と漢字の練習を多く取り入れ、基礎・基本の確実な習得を目指す。	
	算数	学 計算がゆっくりで、課題が終わらない児童が見られる。 学 筆算をする際に、正しい順序で計算していない児童が見られる。	・たし算やひき算といった基本的な計算の速度が速くなるとともに、正答率を上げていくことが課題である。 ・位をそろえて計算することの利点や、正しい筆算の書き方を定着させていくことが課題である。	・基本的な計算を定着させるために、計算ドリルを活用し、計算問題を繰り返し行う学習活動を取り入れていく。 ・筆算の計算の順序を声に出しながら記述をしていく学習活動を取り入れていく。	・計算問題に繰り返し取り組んだことで、習熟を図ることができた。引き続き取り組んでいくとともに、かけ算九九の習得に向けて、家庭学習や個別指導を充実させていく。 ・繰り返し下がりの筆算に関しては課題が残る児童がいるので、個別指導の機会を設定するとともに、復習の学習活動を設定する。	
3	国語	調 「話すこと・聞くこと」の領域は、よく理解している。しかし、大事なことをおとさないように聞き取ることができるかを問う設問では、まだ十分に定着していない児童もいる。 調 「書くこと」の領域では、まだ十分でない児童がいる。特に、指定された長さで文章を書くことができるかを問う設問に課題が残った。 学 漢字の読み書きが十分に定着していない児童も見られる。	・全体の前で発表することや、グループで話し合うことに、苦手意識をもっている。また、大事なことに気を付けて聞く力が十分ではない。 ・文章を書くことや、文章の構成を考えることが難しい。 ・漢字が覚えられず、正しい筆順で書くことができない。	・全体の場で発表したり、グループで話し合って課題に取り組んだりする活動を行う。また、グループでの話し合いでは、話型を活用して指導する。大事なことを落とさずに聞くことができるよう、メモの取り方等の指導を行う。 ・短文の日記を書くことを家庭学習で行う。思ったことや考えたこと、学習のまとめ等を書くことを通して、文や文章を書く場面を設ける。 ・家庭学習で漢字の学習を取り入れるとともに、間違いの多い漢字を適宜取り上げて指導する。また、小テストやフォローアップワークシートを活用して定着を図る。	・全体やグループで発表する場面を設けることで、自分の言葉で表現する力が付いてきた。しかし人前に立つと、思うように話せない児童もいる。今後も発表する機会を多く取り入れ、個別に指導をしていく。 ・家庭学習の日記を書く活動で、事実だけでなく、自分の思いや心に残ったことを文章に表現することができるようになってきた。しかし、まだ、事実のみを書く児童もいるので、互いの作品を交流し合う場の設定をする等の指導を行う。 ・毎日家庭学習に漢字の学習を取り入れている。また、小テストなどで、復習することにより漢字の定着が見られてきた。書き順が身に付いていない児童もいるので、適宜取り上げて指導することで、正しい書き順を定着させていく。	

	算数	【調】「数と計算」の領域は、理解をしている。ただし、減法の文章問題を表した図を理解しているかを問う問題に課題が残った。 【調】「量と測定」には、課題もある。中でもかさの単位の関係を理解し、大小を判断することができるかを問う問題では、指導を必要とする。 【調】「算数への関心・意欲・態度」は高い。 【学】筋道立てて問題の解き方を考えることが難しいことがある。	・問題の場面を図で表現する力が十分ではない。 ・演算決定をする際に、場面に合わせた正しい立式に課題がある。 ・長さやかさの単位の関係を十分に理解することが難しい。 ・自分の考えを表現したり説明したり、他の児童の考えを理解したりする力が十分でない。	・問題場面をテープ図で表して説明したり、□を用いて立式したりする活動を通して、演算決定を適切にできるように指導する。また、年間を通してフォローアップワークシートを活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・単位相互の関係を理解するために、単位の換算の練習だけでなく、実際に計測する経験を十分に積ませる。 ・ICT 機器を活用し、児童に身近な事例を取り上げて、より日常に関連付けた学習ができるようにする。 ・問題場面から事実を読み取り、その方法や理由を説明すること、話し合いの場面ではよりよい説明の仕方等から学び、活用できるように指導する。	・自分で絵や図を描いて説明する場面を増やすことで、適切に演算決定をする力が少しずつ身に付いてきた。しかし、まだ適切な演算決定が難しい児童もいるので、I C T 機器などを活用しながら理解が深まるよう指導していく。 ・長さの学習などで実際に身の回りのものを計測することによって、児童は単位について理解を深めるだけでなく、量感を養うことにもつながった。ただ実測できないものについては、単位の換算が難しいので、プリントやI C T 機器による教材の工夫を通して定着を図る。 ・引き続き ICT 機器を適宜活用し、関心・意欲を高められるようにする。 ・ペアやグループ、全体の場で自分の考えを発表する機会を多く取り入れてきた。それによって少しずつ他の児童に分かりやすく伝えることができるようになってきている。今後も引き続き指導していく。	
4	国語	【調】「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、平成27年度と28年度の標準スコアを同一集団で比較すると、少し下回る結果となった。特に「第3学年配当漢字を読むことができる。」は課題がある。 【調】「言語についての知識・理解・技能」の観点で、平成27年度と28年度の標準スコアを同一集団で比較すると、少し下回る結果となった。特に「場面の移り変わりを読み取ることができる。」設問の正答率は下がった。	・既習漢字の読み書きや、「とめ」「はね」「はらい」を意識して書くことが課題である。 ・物語の課題の移り変わりを理解する力に課題がある。	・ICT 機器を活用して、漢字の書き方を指導していく。普段の授業だけではなく、朝学習や家庭学習で漢字の学習を取り入れ、繰り返し指導していく。漢字の読みについては、漢字を使って短文作りをさせたり、教科書の音読を通して新出漢字の読みを確かめたりして指導する。 ・段落分けの視点を具体的に示すことによって、物語の展開を理解させ、読みを深められるよう指導する。	・家庭学習で取り組ませたり、普段の学習の中でも既習漢字を使うことを意識させたりすることで、漢字を覚える力が身に付いた。しかし、作文やノートなどの文字を書くときに、漢字を活用できていない児童が多い。引き続き指導していく。 ・場面ごとに登場人物の行動や気持ちの変化を捉えられるよう、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いの考えを聞き合う場を設定したことで、叙述に基づいた読み取りを深められるようになった。また、場面の挿絵を実物投影機で映すことで、より情景のイメージを膨らませられるようになった。	
	算数	【調】平成27年度と28年度の標準スコアを同一集団で比較すると、全ての領域で前回のポイントを上回る結果となった。 【調】「量と測定」では平成27年度と28年度の標準スコアを同一集団で比較すると、上回る結果となったが、「時刻と時間」の問題では、課題が見られる。 【学】計算の習熟が十分ではない児童が見られる。	・どのような計算をすればよいのか等、順序よく筋道を立てて考えていくことの理解が十分でないことがある。 ・計算の仕方を間違えて覚えていたり、かけ算を確実に理解することが難しかったりする。	・日常生活や校外学習など、実際にある活動を活かし、算数の学習が日常生活に役立つものであると実感させる。 ・授業だけでなく、家庭学習で、計算の学習を取り入れ、家庭と連携しながら児童の実態を把握して指導する。	・算数科の学習だけでなく、日常生活の中で活動の見通しをもたせたことで、「時刻と時間」についての理解が深まってきた。今後も、「時刻と時間」への意識を高められるよう指導していく。 ・計算に関する課題はまだ見られる。どこでつまづいているかを明確にし、家庭と連携し、復習を確実に行うことで定着を図っていく。	
5	国語	【調】「書くこと」の領域で、平成27年度と28年度の標準スコアを同一集団で比較すると、下回る結果となった。特に「目的や必要に応じて、文章に書こうとすることの具体的な内容を書くことができる。」には課題がある。 【調】「言語についての知識・理解・技能」の領域で、平成27年度と28年度の標準スコアを同一集団で比較すると、上回る結果となった。 【学】漢字の読み書きが十分に定着していない状況が見られる。	・文章を書くことに苦手意識をもっていたり、書き慣れていなかったりする児童がいる。また、主語や述語の関係や助詞に対する理解が十分でないことがある。 ・漢字を覚えることが課題であり、一時的に覚えることはできるが、定着することが難しい。 ・漢字を覚えていなかったり、「とめ」「はね」「はらい」を意識して書いていなかったりする実態がある。	・目的や必要に応じて、まとめた文章を書いたり、日頃から授業の中で、学習している文章が何の目的で書かれているものなのかを意識したり、学習の見通しをもって授業に取り組んだりすることを指導する。 ・日頃から小テストなどを通して習熟を図るとともに、他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を使うよう指導する。 ・I C T 機器を活用して、漢字の書き方を指導し、授業だけでなく、家庭学習で、漢字の学習を取り入れる等、家庭と連携し、児童の実態を把握して指導する。	・日頃の授業の中で、適宜文章を書いたり、学習の見通しをもたせたりすることで、書く活動を意欲的に取り組む児童が増えた。今後も、文章を書く際に、相手意識と目的意識をしっかりともたせて書くよう継続して指導していく。 ・小テストを実施し、漢字の習熟を図ることはおおむねできた。今後も、様々な書く活動の中で、既習漢字を使うよう指導していく。 ・I C T 機器を活用することで、漢字の書き方や書き順の習熟を図ることができた。また、家庭学習で漢字の学習を取り入れることで、漢字を活用して表現する児童が増えた。	

	算数	【調】平成２７年度と２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、全ての領域で前回のポイントを上回る結果となった。 【調】「図形」の領域で、平成２７年度と２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、上回る結果となったが、平行四辺形の作図には課題がある。 【学】提出される課題の状況を見ると、計算の習熟が十分ではない児童が見られる。	・平行四辺形では、向かい合った２組の辺の長さが等しく、平行であるなどの図形の性質を十分に理解できていなかったり、作図の方法やコンパスや分度器の扱い方の理解が不十分だったりすることがある。 ・計算に関しては、方法を理解していなかったり、方法は理解していても計算自体を間違えてしまったりすることがある。	・図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切り取らせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れる。また、ＩＣＴ機器を活用して図形の性質や作図方法を指導する。そうした活動を通して、図形への理解を深めていく。 ・授業だけでなく、家庭学習で、計算の学習を取り入れ、家庭と連携し、児童の実態を把握して指導する。	・図形の指導では、操作的活動やＩＣＴ機器を活用して図形の性質や作図方法を適宜指導したことで、理解が深まった。今後も、日頃の授業の中で、既習事項の復習を取り入れながら指導していき、定着を図る。 ・家庭学習で、計算の学習を適宜取り入れて指導してきたことで、ケアレスミスや誤答が少なくなった。今後も、家庭学習や日頃の授業の中で、適宜計算の学習を取り入れて、児童の実態を把握しながら理解が深まるよう指導していく。	
6	国語	【調】平成２７年度と平成２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、すべての領域で前回のポイントを上回る結果となった。 【調】「言語についての知識・理解・技能」の分野については、平成２７年度と２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、前回より上回る結果となったが、連用修飾語についての設問の正答率は十分とは言えない。 【調】「書くこと」の領域では、平成２７年度と２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、前回より上回る結果となった。しかし、「自分の意見とその理由を区別して書くことができる」ことは課題である。	・語の意味を理解することが課題であったり、語彙が少なかったりする。また、語と語のつながりや、語と修飾の関係など国語の文法的な内容についての知識が十分身に付いていないことがある。 ・事実と感想、自己の思いや考え等を明確に分けて、文章を書くことに課題がある。	・朝学習や家庭学習の課題で、国語辞典を用いて語彙調べを行う。また、フォローアップシートやドリル教材などを活用しながら、基本的な文法についての知識を身に付けさせる。 ・毎週１回、朝学習の時間に「書くことのスキルタイム」を設定し、新聞記事から読み取ったことと、それに対する自分の考えを書いたり、自分自身のことについての短文を書いたりする活動を行い、自分の思いや考えを明確にすることを繰り返し練習する。	・国語以外の学習でも、知らない語彙があると児童自ら国語辞典を開き、調べる姿が見られるようになった。今後もフォローアップシートやドリル教材などを継続して活用し、基本的な文法についての知識を身に付けさせていく。 ・「書くことスキルタイム」に継続して取り組んだことで、自分の考えや思いを書くことができるようになってきた。今後も引き続き指導するとともに、授業では、物語文や説明文の初発の感想や学習感想などの文章を書く時間を十分に確保する。また、指定した時間内に、指定した文字数の文章を書くことも行っていく。	
	算数	【調】平成２７年度と平成２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、「数と計算」の分野を除くすべての領域で前回のポイントを上回る結果となった。 【調】「数と計算」の領域について、平成２７年度と平成２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、ポイントの上昇も下降もなかった。また、「純小数同士の乗法の計算」については、もう一歩の結果であった。 【調】平成２７年度と平成２８年度の標準スコアを同一集団で比較すると、「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識」それぞれ前回より上回る結果となっている。しかし、「展開図から直方体の体積を求めるしいを立式し、体積を求める」ことは課題である。	・計算式を筆算に書き換えて計算する際に、ノートのマスに合わせて数字を書くことや、小数点の移行を確実に行うことが課題である。 ・図形に対する苦手意識をもつ児童が多く、作図や面積・体積の計算を誤ることがある。	・頻繁にノートを回収し、書き方の指導を行う。少人数算数グループでも、ノートの書き方の約束をそろえ、児童が確実に書けるようにする。小数×小数の計算や小数の割り算は、フォローアップシートやドリル教材などを活用し、年間を通して復習を実施する。 ・図形に関する単元については、普段の授業だけでなく朝学習で作図、計算について復習する時間を設定する。また、フォローアップシートやドリル教材を活用し、繰り返し練習し、身に付けられるようにする。	・ノートを丁寧に書く児童が増えてきている。算数習熟度別指導の利点を生かし、児童の実態に合わせて、基本から応用まで様々な問題に取り組ませる。 ・図形に関する単元については、ＩＣＴ機器を効果的に活用したことで、理解を深めることができた。今後、朝学習や家庭学習の時間を活用し、作図、計算の問題に取り組ませる。	

音楽	学1年生 ・歌唱を中心とし、体を動かしながら歌ったり、友達と一緒に歌ったりして、音楽を楽しむことができる。 ・拍の流れを感じ取りながら手拍子をすることができる。	・音楽を楽しむことはできるが、リズムを合わせることが苦手な児童が見られる。	・担任や学習指導支援員等と連携し、積極的に声をかけたり、活動時間を増やしたりして、音楽を楽しめる環境づくりを継続して行う。また、手拍子を真似する活動を通して、リズム感や拍の流れなど、音楽の基本的な感覚を養えるよう指導する。	・拍の流れを感じ取りながら、即興的にリズムを考え、手拍子をすることができている。 ・正しい音程で歌ったり、様子を思い浮かべながら歌ったりする学習を今後も取り入れて指導していく。	
	学3、4年生 ・リコーダーの基礎的な技能を身に付け、簡易な曲を演奏することができる。 ・歌声に気を付けながら歌うことができる。	・基礎的な技能が身に付いている児童とそうでない児童の差が大きい。	・個別指導を充実させ、児童の実態を把握し、基礎的な技能を身に付けていない児童を丁寧に指導する。	・指づかいやタンギングに気を付けながら、リコーダーを演奏するよう継続して指導していく。 ・曲想を生かした歌い方について、音楽の要素と結び付けながら継続して指導していく。	
	学5、6年生 ・習得した技能を生かし、歌唱表現や器楽表現を工夫することができる。	・基礎的な技能が身に付いている児童とそうでない児童の差が大きい。	・児童一人ひとりに積極的に声をかけ、自身の考えをもつことができるようにしたり、個別指導の時間を確保したりして、丁寧に指導する。	・音楽の要素を活用し、曲想を生かして歌うことができている。 ・基礎的な技能を身に付けることができるよう、今後も個別指導を充実させていく。	
図工	学2年生： ・初めて図工室で授業を受けるので、図工室での学習の仕方やルールを覚えることから始めている。	・集中力を持続させることがまだ難しく、授業後半からは私語が多くなる傾向にある。	・作業行程に一定の区切りをつくり、集中する時間を積み重ねていく。	・集中できるときとそうでないときの差が見られる。そこで、ゴールをイメージさせるなど、学習の見通しをもたせるようにする。	
	学3・4年生： ・基本的な授業姿勢や用具の取り扱いが身についてきている。 ・落ち着いて授業を受けることができている。	・学習の仕方やルールがまだ身についていない。	・毎時間、学習の仕方やルールを確認し、身につくまで丁寧に指導していく。	・毎時間、学習の仕方やルールを確認し、身につくまで引き続き丁寧に指導していく。	
	学5・6年生： ・基本的な授業姿勢や用具の取扱いは、概ね身についている。 ・自分なりの表現方法を見つけ始めている。	・概ね一生懸命に制作に取り組むことができている。 ・表現したいものと、自分の表現技術とのギャップに戸惑うことがある。	・引き続き授業姿勢や基礎基本を丁寧に指導していく。 ・使える表現技法を増やしていき、児童が思った通りの表現ができるよう指導していく。	・基礎・基本をしっかり身に付けている児童が多い。 ・思った通りに表現することができない児童向けの製作課題を織り交ぜていく。	
特支					

調

…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学

…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。